

2011年度を振り返って

齋藤泰則

司書・司書教諭課程では、明治大学図書館情報学研究会の企画として、2011年度も引き続き、2回の例会とシンポジウムを開催した。この例会とシンポジウムは、司書・司書教諭課程の受講生に最新の図書館の実践活動を学ぶ機会として、当課程の重要な教育活動の一環として位置付けている。

6月に実施した例会では、本学文学研究科の研究生として在籍されていた韓国国立中央図書館の曹在順氏に、「韓国の図書館事情」と題して報告をしていただいた。本報告については、2011年度の研究会紀要に掲載されている。

10月には、学校図書館の教育・学習機能をテーマとするシンポジウムを開催した。堀川照代先生の基調講演に続き、行政による学校図書館支援事例、学校図書館活用事例の報告をいただいた。堀川先生の基調講演と事例報告については、研究会紀要に論文・記事として改めてご執筆いただいた。

12月の例会は、2部構成とし、第1部では、本学文学部のご出身で、現在、横浜国立大学図書館に勤務されている新見楨子さんに「アメリカの大学図書館における学生向けサービスの歴史と現在」というテーマでご発表をいただいた。第2部では、来年度の国立大学法人図書系職員の内定を得た学生に採用試験に向けての準備や試験の傾向などについて報告していただいた。その詳細は当年報に掲載している。

11月には、図書館情報学検定試験（日本図書館情報学会）の受験を当課程の受講生に課した。本検定試験は、受講生の理解度が十分でない領域の把握に有効であり、FD活動の一環として今後とも活用していく予定である。

本研究会の活動としては、司書職採用試験対策のための勉強会がある。本学出身の現職の図書館員を中心に講師をお願いし毎月開催してい

る。国立大学法人図書系職員試験に合格した上記の学生はいずれも当勉強会の参加者である。

さて、本学司書・司書教諭課程では、2007年度後期よりeラーニングを導入し、本学で開講している司書講習においても、2010年度からeラーニングによる司書資格取得機会を設けている。2011年度には司書・司書教諭課程のeラーニングの受講者も数十名にのぼり、対面授業と並ぶ重要な教育方法として定着しつつある。一方、eラーニング方式による司書講習には、約100名の受講生が登録し、ほぼ全員が所定の期間に受講を修了し、司書資格を取得している。

図書館実習は現場実習として重要な科目であるが、選択科目であるため、例年、受講生は少数にとどまっているが、2011年度は6名の学生が受講した。ご多忙のなか、ご指導いただいた公立図書館の職員の皆様には深く感謝申し上げます。

最後に、2011年度の当課程に関する人事について紹介する。当課程による司書・司書教諭養成教育には多くの兼任講師にご尽力をいただいているが、2011年度には新たに兼任講師として竹内ひとみ先生をお迎えした。また、千代田区立千代田図書館長の新谷迪子氏には、資料組織論の特別講義をご担当いただいた。

また、当課程では授業・学習支援のために本学大学院生をTA(Teaching Assistant)として採用しているが、2011年度には廣岡由佳理さんと星野翼さんが新たに加わった。2010年度よりTAを担当している岡本光代さん、山口美咲さん、本間美奈さんは、2011年度をもって退任される。

来る2012年度からは、図書館法施行規則の改正により、新カリキュラムでの授業が開始される。引き続き、兼任講師の先生方、事務職員の皆様のご協力とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。次第である。